

### 学生が考える宇和海沿岸域の 小さな事前復興プランの提案（ビデオ発表）

### みんなで作る「庭」のある暮らしの 提案（愛南町家串集落事前復興計画）

東京大学院生：砂川良太・神門侑子・松岡央真  
早稲田大学：伊藤滉彩・平林航一

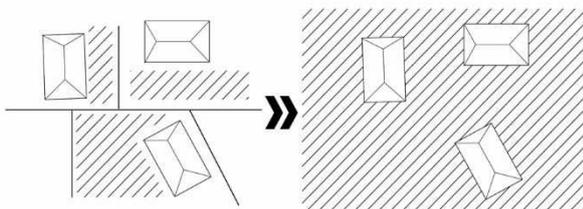
家串集落事前復興計画

## みなでつくる「~~庭~~」 のある暮らしの提案

伊藤滉彩  
神門侑子  
砂川良太  
松岡央真  
平林航一

みなでつくる「庭」のある暮らしの提案と題しまして  
発表させていただきます  
本提案では「にわ」を、手入れをしながら、共同利  
用していくスペースだと考えます。

CONCEPT 「庭」の総有



家の外部空間を各自の「庭」の延長としてとらえる。  
各自の持ち分は定めず、共同で利用し管理する。

集落の生活スタイルをふまえ、公共空間を各自の庭  
の延長としてとらえなおします。それらの庭を、私  
有や公有を超えた、総有という考え方に基づいて、  
集落全体で利用しながら維持していきます。

SITE 一つの県道でつながった由良半島の集落



人口 約200人、世帯数 82世帯  
主産業は真珠母貝の養殖  
由良半島と陸との交通の結節点

対象敷地は、愛媛県の由良半島に位置する家串です。  
真珠母貝の養殖を主産業とし、人口はおおよそ 200  
人です。由良半島の集落は一本の県道のみによって  
結ばれ、家串は陸と半島の交通の結節点に位置しま  
す。



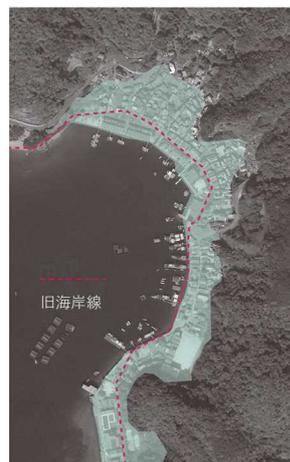
#### SITE UNDERSTANDING

集落の災害リスク

##### 脆弱性

わずかな低地に密集した住宅地を形成  
空き家も多く存在

集落は、わずかな平地に高密度な住宅地を形成して  
います。空き家の増加も近年顕著です。



#### SITE UNDERSTANDING

集落の災害リスク

##### 脆弱性

わずかな低地に密集した住宅地を形成  
空き家も多く存在

漁業施設は埋立地の上に存在

##### 津波のリスク

集落のほとんどが津波浸水域内

##### 津波発生後の課題

山の上の一時避難所とその間の動線は  
ほとんど整備されていない

南海トラフ地震が起きた際には、集落のほとんどが  
浸水されることが予想されます。津波が発生したさ  
い、ぜい弱な住宅地を抜けて、急斜面な山を迅速に  
登ることが重要となります。



#### SITE UNDERSTANDING

漁業集落の読み解き

##### 海から山にかけての縦軸

主要の公共空間が並ぶ

##### 海岸線の横軸

以前は共同利用した生活空間 = 「庭」  
現在は県道

##### 山の横軸

段畑のあったところは農道  
現在は整備されていない

##### 埋立地

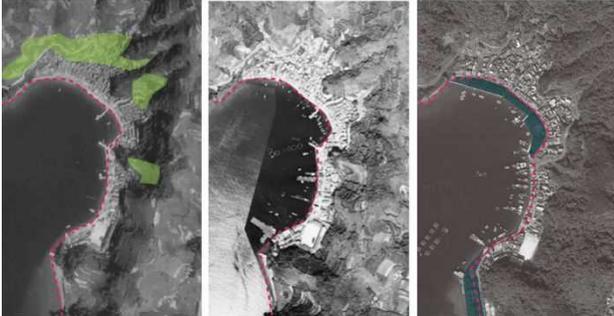
漁業の産業化に伴って県が整備

##### 学校エリア

由良半島中の児童が通う  
若宮神社に祭具のほとんどが保管

本計画では、集落の構造を継承します。中央の縦軸上に主要な公共空間が並び、県道が強いヨコ軸を形成します。この県道はかつて、集落の共同作業場と祭祀空間として機能しました。山の上にはかつての農道が存在します。

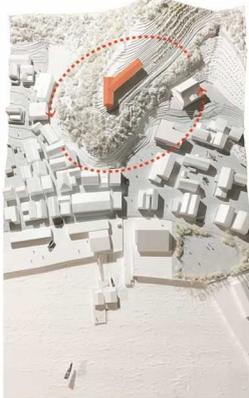
SITE CONTEXT 産業と生活の変化



昭和初期 半農半漁 山は段畑として利用  
 昭和中期 真珠母貝養殖の導入  
 平成 漁業の産業化 埋立地、施設の建設

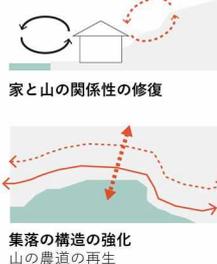
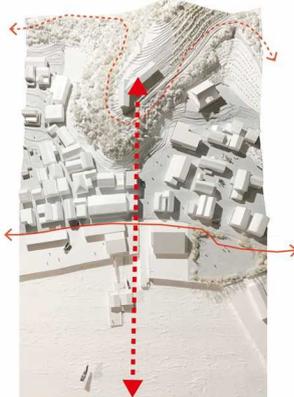
これは真珠の養殖産業が導入される前は、段畑をつかって半農半漁の集落であったことに起因します。

OBJECTIVE 目的の整理



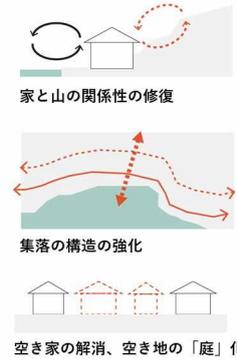
事前復興計画の目的を整理します。災害時における敷地の課題と文化的文脈をふまえて、家と山の間を修復するために、山地の日常利用を促す農具棟を設計します。

OBJECTIVE 目的の整理



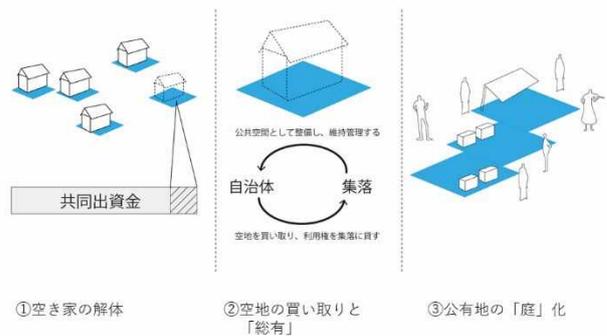
これをきっかけに山の農道が再生され、集落の構造も継承されます。

OBJECTIVE 目的の整理



最後に事前復興として集落のなかにスペースをつかっていくために、空き家を解体していきます。このスペースこそが集落の庭となります。

PROCESS 「庭」をつくる方法

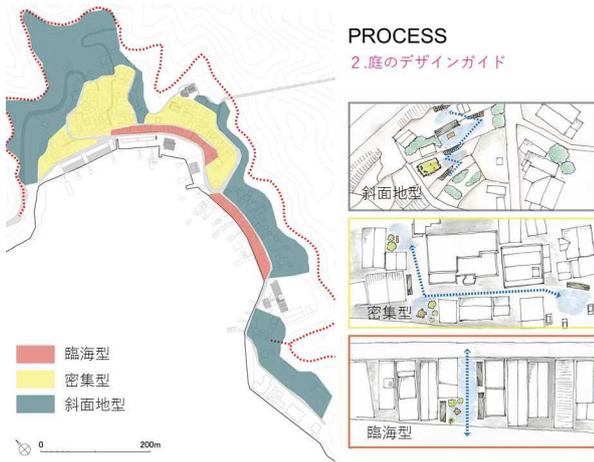


庭を作っていく方法について説明します。まず、共同出資によって順次、空き家を解体していきます。つぎに、空き家を解体してできた空き地を自治体が公有地として買いとります。この公有地の利用権を集落に貸すかわりに、集落全体でこれらの土地を整備維持していきます。

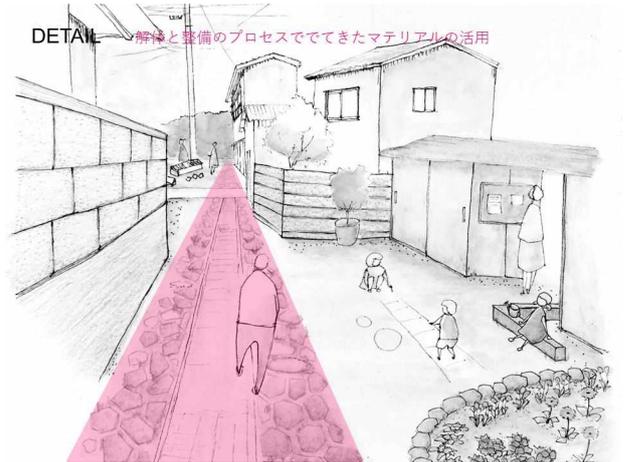
PROCESS 1. 空き家の把握



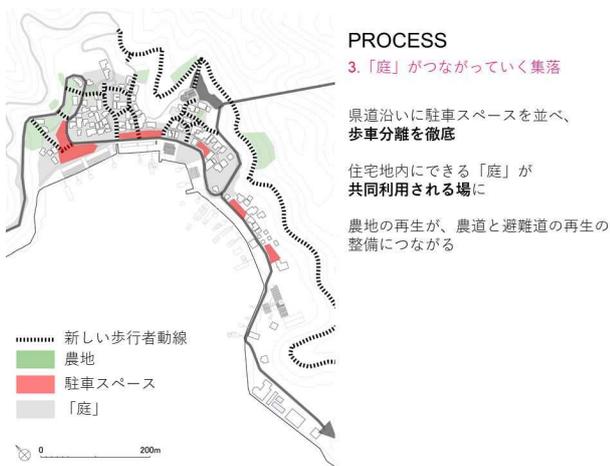
集落にはこのように空き家が多く存在します。



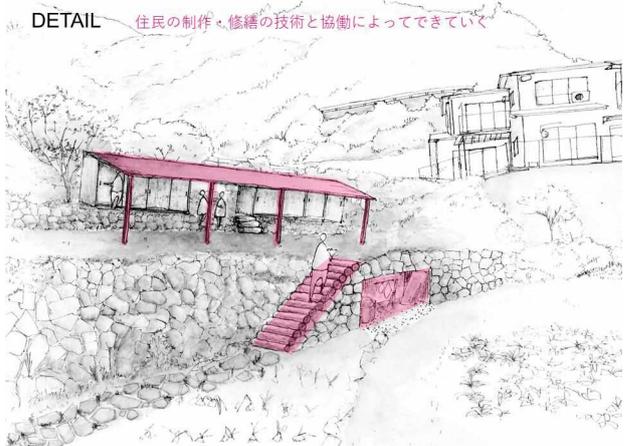
これらの空き家に対して、立地に沿った庭のデザインガイドラインを設定します。



庭の里程については、空き家の解体の際にできた資材を歩道の整備あるいは塗装などに使えます。



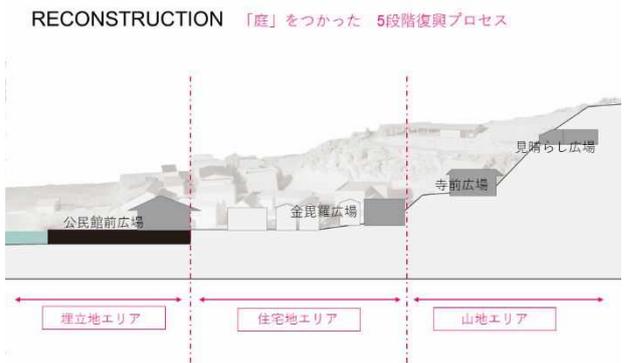
こうすることによって、県道沿いに駐車スペースが設けられ、歩車分離を徹底します。また、住宅地内にできる「庭」が共用利用される場として使われます。そして、農地の再生が農道と避難道の再生の整備につながります。



また庭沿いのファニチャーなどは、住民たちがこれまで漁業を介して培ってきた DIY の動力などを発揮する場だと考えています。



「庭」のある暮らしというのは、住民の方々がお互いのことを意識しながら生活できる空間だと思っています。この意識しあうことが事前防災につながると思います。



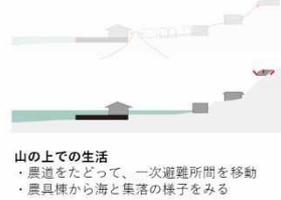
最後に、「庭」をつかった5段階復興のプロセスについて説明します。集落の断面的エリアはこのように整理できます。埋立地エリア、住宅地エリア、産地エリアです。

RECONSTRUCTION ①津波から逃げる



まず、第一段階として、津波から逃げることにについて考えます。集落が位置している住宅地エリアから山地エリアへ迅速に移動するには、「庭」が作るショートカットを利用します。

RECONSTRUCTION ②救助を待つ



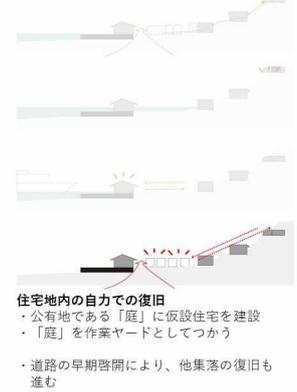
山の上での生活が復旧の前に大事になります。3日間はこの農具棟を中心に生活をします。

RECONSTRUCTION ③海からの復旧へのアプローチ



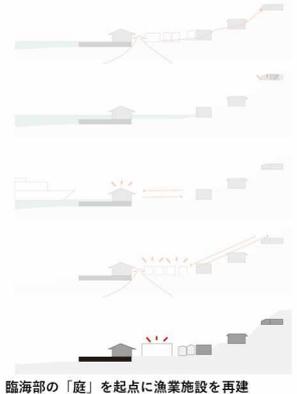
次に、家串の場合は県道が集落と陸をつなぐので、その道路啓開を迅速に進めるために、海から重機などを運びます。それをしめるスペースが「庭」になります。

RECONSTRUCTION ④仮設住宅に住む



住宅地の自力での復旧の段階では、公有地であるため「庭」をすぐに仮設住宅の用地として使うことができます。

RECONSTRUCTION ⑤集落に戻って、生業の復興



最後に、臨海部の「庭」を起点に漁業施設を再建することで、より早く生業を再生することができます。



ご清聴ありがとうございました。

家串集落は高密度であるがゆえに、暮らしがすごく成熟しています。その暮らしを継承しながらも前進的に集落を事前復興の観点で再生していきたいと考えています。  
 以上で発表を終わります。ありがとうございました。